

**市内の文化・芸術活動の偏り**

- ・市民意識は、類似規模の都市と同様の傾向で、文化芸術に興味はあるが特に活動していない人が一定数いる。(市民意識調査)
- ・介護や子育てなどで文化・芸術に関わる機会が失われている。(市民意識調査)
- ・活動団体の高齢化と担い手不足が進行している。(ヒアリング)
- ・Eスポーツなど若者中心の新しい文化・芸術活動が把握できていない。(協議会)
- ・働き盛りの世代(40~50歳代)への訴求が必要。(策定委員会)
- ・地区の人や関係者だけが参加できる祭り・イベントが少なくない(市民意識調査)
- ・文化施設、公民館等の公共施設で多くの団体が活発に活動しているが、身近な生活文化に関わる、昔ながらの習い事の活動が多い。(若者の参加が少ない。)(事務局)
- ・生涯学習や社会教育の手段として行われている文化・芸術活動との連携が図られていない。(事務局)

**島田の市民風土や歴史の理解**

- ・大井川によって東西が分断され、そして東西文化が交流してきた。(協議会)
- ・一つの市に東西文化両方が含まれ、東海道と2つの宿場町がある。(協議会)
- ・「島田らしい」と言えるような特産物がない。逆に東西や海と山の交易によって物産が豊富にあり、名物を作り出す必要がなかったともいえる。(協議会)
- ・文化団体が地区単位で活動しており、その個性や多様性が維持されている。
- ・島田には、長い交流の歴史があり、おもてなしの奥ゆかしさや外部の人を受け入れる懐の深さがある。優れた文化の受容性が高いと考えられる。(事務局)

**文化・芸術に関する企画を実現するには**

- ・リーダーがいない。(ワーキング)
- ・事業を企画しても、実現する能力がある人がいない。(ワーキング)
- ・多くのイベントを実施しているが、一過性なものになりがち。(協議会)
- ・専門家やアーティスト、コーディネーターがいて、実現したいこと(発信したいこと)を明確にすることが必要である。(協議会)

**情報の伝達方法**

- ・文化・芸術活動をしない理由として、情報がないからが多い。(市民意識調査)
- ・文化・芸術の情報伝達は、広報、回覧板、チラシ、口コミが多い。(市民意識調査)
- ・各分野のSNS等で情報発信しているが、枠を超えた情報の共有化が進んでいない。(ワーキング)
- ・情報発信ツールがアナログ主体で、若者などにあまり届いていない。(事務局)

**事業者の文化・芸術活動への支援**

- ・地元の祭りなどへの資金支援を行っている事業所が多い。(事業所意識調査)
- ・事業者の地域貢献活動がお金のみの繋がりになっている。(事業所意識調査)
- ・事業者の文化・芸術活動支援に関するメリットや、多様な支援の方法などの情報が不足している。事業者と支援が必要な文化・芸術活動がうまく結びつけられていない。(事務局)

**誰もが身近に参加・活動できる環境づくり**

- ・良質で多様な文化・芸術に触れられる機会の提供
- ・既存の活動への支援と市民文化祭の充実
- ・子供たちの文化・芸術に触れる機会の充実
- ・子育て世代や介護をする人などが文化・芸術に親しむきっかけづくり
- ・若者の文化・芸術活動の実態把握と支援
- ・働く世代が文化・芸術を楽しむ環境の整備

**誰もが身近に参加・活動できる場づくり**

- ・公共の文化施設の充実
- ・多様な人と世代がつながる文化・芸術の集いの場づくり

**島田らしい文化の創出と歴史資源の継承と活用**

- ・島田ならではの文化資源の継続的発掘
- ・異なる分野と文化・芸術を組み合わせた活用の検討
- ・文化資源の背景にあるストーリーの提示
- ・時代とともに変化する文化活動のあり方の検討
- ・地域の文化資源をモチーフとした新たな文化・芸術

**交流による参加の促進**

- ・楽しさが伝わる参加の動機づけと誰もが参加しやすい環境の整備
- ・異年齢交流、多世代交流、多文化交流の促進
- ・ソーシャルインクルージョン(社会的包摂)の推進

**島田への愛着や誇りの形成**

- ・外部との交流による島田らしさの認識と発信
- ・学校教育、社会教育との協働
- ・地域の文化財や伝統芸能の継承

**人材の獲得・育成・活用**

- ・Iターン、Uターン、Jターンの促進
- ・文化を牽引するアーティストや専門家の定住や活動の受け皿づくり
- ・プロデューサーやコーディネーターの育成
- ・外部の専門家やアーティストの活用
- ・事業所・団体・大学との連携
- ・人材バンクの整備と活用の促進

**情報の集約と内外への発信力の強化**

- ・情報の効率的な集約と発信
- ・若者や情報弱者への伝達方法の検討

**事業者・団体・イベントとの連携**

- ・事業者への文化・芸術活動の関わりの仕組みづくり
- ・事業者による支援のマッチングの場づくり
- ・団体とイベントのマッチングの強化
- ・従業員の文化・芸術活動の支援

**文化施設の機能性向上と役割の充実**

- ・市内に大規模ホールがなく、代替施設となるおおりの中規模ホールは、設備が老朽化している。(島田市役所周辺整備基本構想)
- ・博物館などの立派な建物があっても活かしきれていない。(市民意識調査)
- ・多目的にゆるく使えるオープンスペースが不足している。(事務局)

**文化資源の継続的な発掘と見せ方の工夫**

- ・島田らしさを感じる資源は、大井川、蓬莱橋、SL、茶畑など。(市民意識調査)
- ・牧之原台地から眺める大井川と富士山の景観が素晴らしい。(協議会)
- ・地元の地域資源に気づいていない市民が多い。(市民意識調査)
- ・いつも同じ資源で目新しさが無い。(ワーキング)
- ・自然や歴史、お茶など、今あるものを大切にすべき。(協議会)
- ・近世から現代までの様々な交通機関がそろっている。(ワーキング)
- ・ウォーキング、サイクリングでの周遊に文化的資源を組み合わせるとどうか。(ワーキング)
- ・文化財や資源は豊富にあるが、個々に存在しており、互いの関わりが見出せていない。(事務局)

**インバウンドを意識して**

- ・2020オリンピック・パラリンピック、2025大阪万博に外国人を含めた多くの人が訪れる好機ととらえ、島田の文化の発信を行ってほしい。(ワーキング)
- ・街なかに観光客の姿がなく、空港のある街という空気が感じられない。(協議会)
- ・茶畑の風景や祭りなど、外国人にとって魅力的な資源が残されている。(協議会)
- ・観光客も地元の人も楽しみながら歴史を学べるとよい。(市民意識調査)

**文化・芸術による社会的課題への対応**

- ・空家(古民家)、空店舗などが存在する。(ヒアリング)
- ・若年層は人口流出傾向にある。(ワーキング)
- ・空港が近いので、世界中から沢山の芸術家が集まり住まう街になると良い。(市民意識調査)
- ・WAC藤枝(特別支援学校の卒業生のアート活動)を核にした障害者の芸術活動がある。人とコミュニティ、企業、店舗などをつなぐ力がある。(ヒアリング)
- ・島田市への移住の動機として、都市圏からの距離の近さ、景観、自然、色彩、人の受容性の良さなどがあげられる。(協議会)

**人と人とのつながり**

- ・活動をしない理由として、きっかけがないという人が多い。(市民意識調査)
- ・金谷宿大学のような身近な文化・芸術活動から少しずつ人と人との繋がりが広がっていくと良い。(ヒアリング)
- ・子どもを巻き込むイベントを実施すると、親も参加する。(ワーキング)
- ・2019年度から地域の人が学校で教えるコミュニティースクールの導入を目指している。(ワーキング)
- ・新しいものとの出会いの場が必要である。(協議会)
- ・興味を持たせるのではなく、関わりを持たせて、楽しさを伝えることが重要である。(協議会)
- ・市民の何もないというあきらめの意識を変えるには、外部からの視点による気付きが必要。(協議会)